

# 【中学受験勉強法と浜学園の使い方 **八ヶ条**】

- この八ヶ条は、著者および出版社角川書店から使用許可をいただき、抜粋して作成したものです。
- 【著者からのご注意】  
佐藤式のやり方をこの本で理解できても、それがあなたのお子さんにそのまま当てはまるわけではありません。



## 一．何事もできるだけ早くプロに教わる

子どもは「できない」のではなく「知らない」ことの方が多いものです。

## 二．塾を必要以上に毛嫌いしない

佐藤家の3兄弟は、小学4年生から浜学園に入れました。

- 塾は授業がおもしろい。子ども達は常に知的興奮をもつことができました。
- テキストも秀逸です。塾は最短のルートで最高のタフさを身につける筋トレと同じなのです。

## 三．塾はテキストで選ぶ

問題の並べ方に愛情を感じるかどうか。ただ、単元ごとに基礎・応用と問題を並べているだけのテキストを使っても…そういうテキストを作る先生は、おもしろい授業はできません。いいテキストとは、「この問題ができれば、これをやってみよう。これができるなら、こういう応用があるよ」とまさに生徒を導いてくれるようなテキストです。そんなテキストを作れる先生は、生徒達の知的好奇心を刺激する授業をするものです。私は、浜学園のテキストを読んだとき、「ここにしよう!」とすぐに思いました。レイアウトから設問まで、考え抜かれていることが伝わってきたのです。そして、それは正解でした。

## 四．勉強を嫌がる子にはまず成功体験を与える

小学校の計算テストがあるとき、ただ「勉強しておきなさい!」と言うだけでは子どもは絶対に勉強しません。お母さんが誘導してあげる必要があります。ほんの少し計算を手伝って教えてあげるだけで、確実に点数は上がります。助けてあげていい点数をとらせて勉強が楽しくなって…というサイクルを回していく。まずは成功体験を味わわせて、勉強の渦に巻き込んであげることが大切なのです。

## 五．基本に戻ることを恐れない

勉強の穴(不得意単元)になっている箇所はあるものです。その穴に気づいたときにそこに戻り、完璧にふさぐことはとても大切です。進むことだけが勉強ではないのです。

## 六．本番にでたら困る穴を探すのが、テストや模試なのです

テストは、100点を取ったらそのテストにはもう意味はありません。それ以上の結果が出ることはなく、何回やっても100点にしかならないのです。80点だったら、落とした20点分の問題に、本番、つまり入試ではなく今出会ったことに感謝しなくてはなりません。本番にでたら困る穴を探すのが、テストや模試なのです。点数が取れないのは、何か原因が必ずあるはず。そこを探す手段としてテストを使うことが大切です。

## 七．テストは必ず100点を狙わせる

全力でテスト勉強をしたつもりだったけれど、結局パーフェクトにはできなかったということを受け止め、反省して糧にする。それが積み重なったとき、「完璧な勉強なんてないんだ。だから、平日頃から丁寧にしないと点数なんてとれないんだ」と気づくでしょう。

## 八．本当は自分との闘いです

進学塾の浜学園に行くともっとできる子がたくさんいましたから、「自分はすごい」なんて井の中の蛙になることはなかったのでしょう。受験という「他人との競争」、「蹴落とす合戦」というイメージを持たれますが、本当は自分との闘いです。